

1

【解答】 [10 点(各 2 点×5)]

(1) E (2) D (3) A (4) A (5) C

【解説】

(1) A. [kəmə':(r)fə l] B. [præfɪʃə nt] C. [rɪmémbrəns]

D. [səspɪʃə s] E. [tə'lærèit]

* E は第 1 音節, それ以外はすべて第 2 音節。

(2) A. [sə':(r)kəmstæ`ns] B. [ímigrənt] C. [ínfəməs]

D. [əpóunənt] E. [réləvənt]

* D は第 2 音節, それ以外はすべて第 1 音節。

(3) A. [æ'dmərəbl] B. [kənsídərət] C. [ígzæ'dʒərəit]

D. [mənípjulèit] E. [spantéiniəs]

* A は第 1 音節, それ以外はすべて第 2 音節。

(4) A. [æ'ŋkə(r)] B. [iréis] C. [kéias]

D. [léibəl] E. [véig]

* A は[æ], それ以外はすべて[eɪ]。

(5) A. [kɔ':(r)s] B. [kɔ':(r)t] C. [dʒə':(r)nl]

D. [pɔ':(r)] E. [sɔ':(r)s]

* C は[ə:(r)], それ以外はすべて[ɔ:(r)]。

2

【解答】 [20 点(各 2 点×10)]

(1) D (2) B (3) C (4) C (5) A (6) C (7) C (8) A (9) A (10) B

【解説】

(1) 「私の兄は睡眠障害があるが、睡眠薬を飲む気にはならない。」

* be reluctant to do ~する気がしない

(2) 「経営陣と組合は労働条件をめぐる紛争を解決しようとしている。」

* the dispute over A Aをめぐる紛争

(3) 「彼について覚えてことは、気立てのよい若者だったということである。」

* what I recall of him が名詞節で、前置詞 from の目的語になっている。なお、節内では what が他動詞 recall の目的語になっている。

(4) 「メアリーは卵もゆでることができないし、夕食を作ることはなおさらできない。」

* much less [否定文で] ~は言うまでもなく

(5) 「あのとき彼が私の助言を聞いていれば、今頃はもっと幸せだっただろうに。」

* 条件節が仮定法過去完了で、帰結節が仮定法過去になっている。

- (6) 「交通渋滞を避けるために早く出発するつもりだ。」
* set off 出発する
- (7) 「偉大な選手として思い出してもらつつもりならば、彼はその試合に勝たねばならないとコーチは彼に言った。」
* be to do は if 節内で用いると「～するつもり」という「意図」の意味になる。
- (8) 「通りの両側に桜の木がある。」
* either は, side, end, hand などと一緒に用いると「両方の」という意味になる。なお、選択肢の both を選ぶためには, side ではなく, sides と複数形になる。
- (9) 「適当なバスがあれば時間通りにそこに着ける。」
* provided (that) = if
なお, suppose (that)を直説法未来で用いる場合は, 単純未来ではなく, 意思未来で用いなければならない。本文は内容的に単純未来なので suppose(that)は不適切である。
- (10) 「このバッグはあのバッグよりもかわいく見えるけど, 値段は二倍だ。」
* twice as 原級 as ～ ～の二倍…である

3

【解答】 [15点(各1点×15)]

- (1) (あ) last (い) one
(2) (う) seniors (え) range
(3) (お) typically (か) with
(4) (き) see (く) it
(5) (け) away (こ) with
(6) (さ) the (し) more
(7) (す) owed (せ) better (そ) than

【解説】

- (1) (あ)(い) the last 名詞 but one 最後から二番目の～
* but は「～を除いた」という意味の前置詞なので、「一つを除いた最後の～」と考える。
- (2) (う) seniors 高齢者
(え) a range of 多様な
- (3) (お) typically 典型的には
(か) be associated with A A と結びつきがある
- (4) (き)(く) see (to it) that SV ～するように取り計らう
- (5) (け)(こ) do away with A A をやめてしまう
- (6) (さ)(し) (all) the 比較級 その分だけますます～
- (7) (す) owe A B A に B を負っている
* money と he の間に目的格の関係代名詞が省略されている。
(せ) better late than never しないことに比べたら、遅くてもしてくれる方がまし

4

【解答】 [15点(各3点×5)]

[対話 1] (あ) B

[対話 2] (い) B (う) B

[対話 3] (え) C (お) E

【解説】

[対話 1]

男1 きみに伝えたいことがあるんだ。

男2 何？

男1 信じないかもしれないけど、弁論大会で一番になったよ。

男2 おめでとう！

(あ)

- A. 考えてみると
- B. 信じようと信じまいと
- C. もっと重要なことに
- D. 疑いなく
- E. どれほど一生懸命やっても

[対話 2]

女1 何日仕事をやすむの？

女2 10日間休もうと思っているの。

女1 それだけの休暇を取ってもいいわね。ずっと一生懸命働いてきたからね。

(い)

take a day off (from work) 仕事を1日休む

(う)

- A. あなたはその当時幸せだったに違いない。
- B. あなたはその休暇に値する。
- C. いつでもいいよ。
- D. 久しぶりですね。
- E. その価値はない。

[対話 3]

女1 キムラさん、あなたの仕事はどうですか？

女2 ええと、医者であることはやりがいがあります、なぜなら自分の患者が病気から回復する手助けができるからです。

女1 医者であることの大変な部分はなんですか？

女 2 患者たちが 24 時間の世話を必要としていることです。ですから、医者は夜でも休日でも始終対応できなければなりません。

(え)

- A. 勤勉な
- B. 腹を立てている
- C. やりがいのある
- D. 忠実な
- E. 誠実な

(お)

- A. 世話される
- B. 既存の
- C. 流通している
- D. 住み込みの
- E. 対応できる

5

【解答】 [40 点]

- (1) inactive [2 点]
- (2) 2010 年の研究では運動すれば不眠症患者の睡眠パターンが改善されると思われていたが、今回の研究では短期間運動しても睡眠が質的に改善されることはないとわかったから。(80 字) [10 点]
- (3) 一日だけ単発的に運動しても、ストレスの過剰覚醒は潜在的に悪化しさえするかも知れない。 [14 点]
- (4) sleep [2 点]
- (5) A, F, H [12 点(各 4 点×3)]

【解説】

- (1) sedentary は「ほとんど体を動かさない」という意味の形容詞なので、第 4 段第 1 文の inactive 「活動していない」がそれに相当する。
- (2) [基準] 10 点 [①配点せず ②③各 4 点 ④2 点]
 - ① 2010 年と今回の研究結果とを対比的に論じる。どちらか一方だけでは不可。
 - ② 「2010 年の研究では運動すれば不眠症患者の睡眠パターンが改善されると思われていた」 運動と睡眠改善との肯定的な関係が書かれていれば配点する。
 - ③ 「今回の研究では短期間運動しても睡眠が質的に改善されることはないとわかった」 「短期間の運動が睡眠に悪影響を与える」などでもよい。要は、運動を集中的にしても即座に睡眠が改善されるわけではないことが書かれていればよい。なお、睡眠障害の有無に関しては、著者の見解でなく他の研究者の論点と

の比較なので、その様な記述は必要ない。

- ④ 理由の説明問題なので、解答文の最後に「～だから」などの文末処理をする。
- ⑤ 字数は指定数の8割(64字)以上とする。それに満たなかったり、指定数を超過した解答は3点減点。なお「2010」の様な数字は二桁で1字扱いとする。したがって、この場合には2字と数える。

(3) [基準] 14点 [①3点 ②⑤各4点 ③1点 ④2点]

- ① NP1 could M1 even VP1:「NP1はM1でVP1しさえするかも知れない」 could は仮定法過去で推量を表すので、「出来た」と直説法過去で訳した解答は2点減点。なお、ここでは主語のNP1が条件節の代用をしているが、「NP1しても」と訳さずに、直訳で「NP1は」でも可。
- ② NP1 = It:「(一日だけの)単発的な運動」 第12段第3文の A single bout of exercise on any given day を受ける。「一日だけの」は訳してなくてもよい。ただし、たんに「それ」と訳した解答は設問条件に反するので、配点しない。
- ③ M1 = potentially:「潜在的に」
- ④ VP1 = make NP2 worse:「NP2を悪化させる」
- ⑤ NP2 = it:「ストレスの過剰覚醒」 第12段第3文の that arousal を受け、それはまた同段第2文の hyper-arousal of the stress system を受けている。「ストレスの」は訳してなくてもよい。ただし、たんに「それ」と訳した解答は設問条件に反するので、配点しない。
- ⑥ 誤字、単語の誤訳、判読不能な語、日本語として不自然な表現などは、それぞれ1点ずつ減点する。

[略字・記号]

NP	[noun phrase]	名詞句
VP	[verb phrase]	動詞句
M	[modifier]	修飾語句

(4) 下線部(え)直前の sleep を受ける。設問の it の直後に代動詞 did があり、それは一般動詞の代用であることに注目する。つまり、ここでは arrive の代動詞となっている。主節の主語の arousal は is dialed down という述語で受けられており、それだと did ではなく was で受けられるので不可。

(5)

- A. 「患者からの病訴を受けて、Baron 医師は通常の運動が患者の睡眠パターンを改善するのに本当に有効かどうかを調べてみようという気になった」 第1段第1～2文の内容に一致する。
- B. 「Baron 医師は、運動が睡眠に与える影響よりも、睡眠が運動に与える影響の方が大きいという通説を証明した」 第2段第3文で、「毎日の運動が睡眠習慣に及ぼす影響は多くの者が予想するより複雑である」と述べている。したがって、本文に一致しない。
- C. 「2010年に行われた実験では、実験参加者は運動しないか自分の思い通りにさせなかった」 第4段第1文で、「研究者は志願者に体を動かさないままにいるか適度な持久力運動プログラムを始めるように指示した」とある。したがって、本文に

一致しない。

- D. 「2010年の実験で、運動グループに参加した者たちは、不眠症を克服するために研究者が指示した強度の運動プログラムを受けなければならなかった」 第4段第1文で、「適度な持久力運動プログラム」とある。したがって、本文に一致しない。
- E. 「Baron 医師の研究では、運動がストレス反応を刺激することによって神経覚醒を和らげる効果を持つことが明らかになった」 第13段第1文で、「トレーニングはストレス反応を静め始める」と述べられている。しかし、それは「ストレス反応を刺激することによって」ではない。したがって、本文に一致しない。
- F. 「Baron 医師は、2010年の実験で得られた研究結果が他の同様な実験結果と異なっているのは、実験参加者の選び方が他の研究者が行った実験と異なっていたからであると考えている」 第3段第2文で、Baron 医師は「不眠症の診断を受けた」参加者を使ったと述べられている。これに対して、第11段第1文で、「大多数の他の実験では睡眠障害の既往症がない参加者を使った」とある。そして、第12段第1文で、「不眠症や他の睡眠障害を持つ人々は(そうでない人々と比べて)『神経学的に』違っている」と述べられている。したがって、本文に一致する。なお、同段第1文の「2010年の最初に公表した運動と睡眠との研究」とは他ならぬ Baron 医師のものである。これはその研究が「不眠症の診断を受けた女性(と一人の男性)集団」を対象としていたもので、不眠症の既往症を持たない他の研究とは違っていること、また第13段第2文で、神経覚醒の鎮静効果に関して「2010年の実験と同様」の結果が得られたことを前提に、第14段第1文で「この両方の研究」と述べていることから自明である。その意味では、内容一致問題はテキスト全体の議論を追う必要があることを示す良問である。
- G. 「Baron 医師は、不眠症患者にとっての運動と睡眠との関係は睡眠障害を持たない健康な参加者に対して行われた実験によって引き出せると考えている」 第9段第1文で、不眠症患者を使った実験では「運動をすると、たいていはその晩よく眠れなかった」と述べられている。それに対して、第11段第2・3文では、他の実験が対象とした睡眠障害の既往症がない参加者の場合には、「運動と睡眠は比較的単純な関係である様に思われる。トレーニングをすると、心身ともに疲れ、その晩はいつもよりぐっすり眠れる」と述べられている。したがって、本文に一致しない。
- H. 「Baron 医師の最近の研究結果は女性だけではなく男性にも当てはまることを証明するには一層の研究が必要であろう」 第14段第1文で、実験参加者が「すべて中年か高齢の女性」であり、第2・3文で『「この研究結果は男性にも等しく当てはまる』と Baron 医師は述べた。しかし、その見解はまだこれから証明されなければならない」とある。したがって、本文に一致する。

【講評】

全体的に標準的な問題である。失点をしなければ、それなりに得点できるであろう。時間的にも70分あれば十分である。Ⅱ期に向けて十分な対策をとってきた者であれば、合格に十分な得点が得られるであろう。